

事業の背景・目的

ダイトウサクラタデおよびアラゲタデは水生で、近年、農薬の使用や外来種の移入により、生育できる環境が激減している。そのため、美ら島財団が主体となり、2015年に両種の採集を行い、その育成を新宿御苑に依頼した。しかし、保護個体の遺伝的背景は不明であり、どの個体由来の種子を優先して保存するかを決められていない。また、自殖率が評価できていないため、他殖の推進による保護の必要性も検討できていない。一方、実際の育成においては、効率的な種子生産に適した育成環境が不明で、種子保存プロトコルも確立できていない。本園は、新宿御苑から種子を引き継ぎ、これらの問題解決を目指している。

事業の内容

・前年度までに採集または栽培により保存したダイトウサクラタデおよびアラゲタデの種子について、発芽率を計測し、保存状態を確認した。また、発芽した個体を育成し、次年度以降の保全活動に用いる種子を回収した。

事業① 種子生産の向上事業

- ・培養器内で種子を発芽させる
- ・発芽した個体を温室内で育成する

事業② 種子保存事業

- ・低温保存を開始した
- ・保存した種子の発芽率を計測した
- ・結実した種子を回収した



種子発芽率の計測。
カビで死滅する個体が多い

得られた成果

<種子生産の向上事業>

- ・発芽条件を決定した。ただし、発芽率は30-50%だったが、実生または発芽前の個体がカビによって死滅することが多かった。
- ・本葉を展開した個体は、順調に育成した。

<種子保存事業>

- ・低温保存を開始した。
- ・常温保存の種子では、経年による顕著な発芽率の違いは見られなかった。